

| | | | |
|---|-------------|---|-------|
| 科目名 | (D) 国際関係論研究 | 担当者 | 水本 義彦 |
| 開講期 | 通年 | 単位数 | 4 単位 |
| 【概要】 | | 【授業計画】 | |
| <p>本授業では、Melvyn P. Leffler and Odd Arne Westad (eds.), <i>The Cambridge History of the Cold War</i>, I-III (Cambridge: Cambridge University Press, 2010)をテキストとし、第二次世界大戦後の冷戦を多面的に考察していく。</p> <p>冷戦の終焉から4半世紀が経過し、関係各国で冷戦期の外交資料の解禁が進むにつれ、かつては米ソの二大国関係の分析が中心であった冷戦の実相が、様々な観点から議論されるようになっていく。</p> <p>上記テキストは、世界の著名な冷戦史家による最新の研究を統合したものであり、受講生とともに、冷戦の起源(第1巻)、危機とデタント(第2巻)、終焉(第3巻)の各局面について、主要な論文を講読し、批判的な考察を行う。</p> | | <p>1. 授業の目的、進め方</p> <p>(パート①：起源)</p> <p>第2回から10回の授業で以下のトピックを扱う。 イデオロギーと冷戦の起源、米ソの世界戦略、イギリスと冷戦、中ソ同盟の形成、核兵器、文化と冷戦、ドイツ分断</p> <p>(パート②：危機とデタント)</p> <p>第11回から20回の授業で以下のトピックを扱う。 冷戦の経済的側面、キューバ危機、軍拡競争、ヨーロッパ統合、ヨーロッパデタント、第三世界の冷戦、核拡散、インテリジェンス</p> <p>(パート③：終焉)</p> <p>第21回から28回の授業で以下のトピックを扱う。 世界経済の変容、ユーロ・コミュニズム、米ソデタントの崩壊、イスラム主義の台頭、ゴルバチョフ、レーガン、東欧革命、ドイツ統一、ソ連邦の崩壊、冷戦とトランスナショナルな組織、人権</p> | |
| 【到達目標】 | | 【事前・事後学修の内容】 | |
| 国際関係論に関する文献を読み、より高度な議論ができるようにする。 | | テキストの講読 | |
| 【テキスト・参考文献】 | | 【評価方法】 | |
| Melvyn P. Leffler and Odd Arne Westad (eds.), <i>The Cambridge History of the Cold War</i> , I-III (Cambridge: Cambridge University Press, 2010). | | 毎回の授業での課題(50パーセント)、学期末レポート(50パーセント)を総合して評価する。 | |